

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

〔開催日時〕 令和8年1月15日（木）13時30分～15時30分

〔開催場所〕 富士学園 ふれあい館

〔出席者〕 施設利用者代表 宮川利正氏・下川静代氏
施設利用者家族代表 山田英子氏（家族会会長）
地域の関係者 原田耕二氏（内野自治会会長）
福祉に知見のある人 吉浦利清氏
（富士地区社会福祉協議会会長）
施設職員 施設長・坊野（支援サービス部長）

〔会議内容〕

1. 開 会

- ・施設長挨拶 社会福祉法人めぐみ厚生センター「地域連携推進会議規程」の趣旨・目的等の確認。
- ・参加者自己紹介

2. 社会福祉法人めぐみ厚生センターについて

- ・法人創立の理念、沿革、各種事業等。

3. 富士学園の現状について

- ・施設の沿革、事業内容（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中活動）、利用定員、対象者の障害特性、障害支援区分の状況、年齢構成等。

4. 施設見学

- ・施設内を案内し、施設利用者の生活・活動状況を見て、直接利用者や職員と会話をしていただき、施設の設備等の説明を行う。

5. 富士学園の取り組みについて（利用者支援・行事・地域との関わり等）

- ・利用者の一日の流れと生活の様子。
- ・補助金を利用したWi-Fiの利用によって、利用者の生活に変化が見られ、タブレットで動画を鑑賞するなど、生活の質の向上に繋がっていること。
- ・職員の勤務時間や利用者の活動内容、余暇支援や外出、受診等。
- ・地域との交流（富士町ボランティアの受け入れ）、地域交流スペースとしてのふれあい館（体育館）の利用について。
- ・職員として、外国人労働者を採用している現状、今後も増える可能性があることについて。

6. 意見交換会

- ・措置制度の頃と利用契約制度になってからの収入等に変化があるかとの質問。(利用者の障害支援区分や支援の内容で報酬が決まり、以前に比べると収入減になっている)
- ・新型コロナ感染症が広がる以前は、交歓の夕べ(感謝祭)や小学生との交流、保育園のお遊戯会会場で施設を利用されることも多かったが、現在は、ほとんどなくなっている。
- ・利用者について、高齢化が進み外出なども公用車で行くことが多くなったため、地域では見かけることが少なくなった。
- ・職員について、外国人労働者を採用しているが、地区の中での外国人労働者の現状(マナーなど)について話を聞く。(地区の方々は、比較的友好的でゴミの分別などきちんとされているとのこと。外国人の移動手段が限られているため、今後空き家情報等も共有していくことを確認)
- ・社会資源としての施設の役割として、地区社協の『憩いの家』事業の送迎への協力に感謝しているとのこと。(今後も地域と情報を共有し協力していく)
- ・建物が30年近くなるため老朽化が目立ってきた。リフォームの予定はあるかとの意見。(行動障害を持つ利用者も多く、修繕が多くなっているが、現在の財務状況では、実現に至らない。補助金等を活用していく)

以上